

# 今さら聞けない!? ～言語聴覚士～

話す、聞く、表現する、食べる・・・誰でもごく自然に行っていることが、病気や事故、加齢、生まれつきの障害によって困難であるという方もいます。こうした、ことばによるコミュニケーションや嚥下に問題がある方々の社会復帰をお手伝いし、自分らしい生活ができるよう支援するのが言語聴覚士の仕事です。  
今回は言語聴覚士についてみていきましょう。

## ●言語聴覚士とは

私たちはことばによってお互いの気持ちや考えを伝え合い、経験や知識を共有して生活しています。ことばによるコミュニケーションには言語、聴覚、発声・発音、認知などの各機能が関係していますが、病気や交通事故、発達上の問題などでこのような機能が損なわれることがあります。言語聴覚士はことばによるコミュニケーションに問題がある方に専門的サービスを提供し、自分らしい生活を構築できるよう支援する専門職です。また、摂食・嚥下の問題にも専門的に対応します。

## ●言語聴覚障害、摂食・嚥下障害とは？

ことばによるコミュニケーションの問題は、脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など多岐に渡り、小児から高齢者まで幅広く現れます。聞こえやことばの障害は目には見えないのですが、社会生活を送る上で深刻な問題を引き起こします。

言語聴覚障害は多種多様です。

### (1) 聞こえの障害

話しことばが聞き取れないためコミュニケーションに問題が生じます。また、自分の話し声も聞き取れないため発音や声の大きさなどが不自然になり、円滑な意思伝達が難しくなります。先天的な聞こえの障害では、障害の程度にもよりますがそのままでは日本語の習得に困難が生じます。



### (2) 言語機能の障害

ことばが年齢相応に育たない「言語発達障害」、ことばが出てこない・意味がわからない、といった「失語症」があります。その他に記憶や注意、認知などが障害される「高次脳機能障害」も直接的



または間接的に言語機能に影響します。いずれも脳の言語機能・高次の認知機能の障害によっておこり、円滑なコミュニケーションなどに影響を及ぼします。

### (3) 話しことばの障害

声のかすれや大きな声が出ないといった「声の障害」、発音が誤ったり歪んだり、呂律（ろれつ）が回らないといった「発音の障害」があります。



脳血管障害、腫瘍、声帯ポリープなど様々な原因でおこります。不明瞭な発音や不自然な音声は聞き取りにくく、話しことばによるコミュニケーションに影響を及ぼします。

### (4) 摂食・嚥下障害

食べ物を噛んだり、飲み込んだりできないです。食べ物が肺に入っておこす肺炎や食べ物による窒息など生命に危険を及ぼす可能性のほか、低栄養による体力・免疫力の低下、食べる喜びも失われます。



## ●言語聴覚士の仕事

言語聴覚障害、摂食・嚥下障害を対象とし、障害のある方を支援する専門職が言語聴覚士です。言語聴覚士はこのような問題の本質や発現メカニズムを明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を実施し、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行います。このような活動は医師などの医療専門職、ケースワーカーなどの保健・福祉専門職、



教師、心理専門職などと連携し、チームの一員として行います。